

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 七野会	代表者	井上ひろみ	法人・ 事業所 の特徴	平均年齢 86.4 歳。平均介護度は 2.3。利用者の 7 割程度が独居、その他は働く世代の子供との同居。 法人理念である、『その人らしく』地域や住み慣れた自宅で暮らし続けられる事を大切にし、日々援助にあたっています。
事業所名	小規模多機能施設 和泉の家	管理者	久國康子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	1人	1人	人	1人	1人	2人	人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価で出た改善点を各項目ごとに職員会議で確認と振り返りを行う（毎月の会議で一項目ずつぐらい） 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の職員会議の冒頭で、改善計画を振り返ることができた。 登録者数が増えるとなかなか取り組めないことが多くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 細かいところまで努力されていると思う。 して欲しいこと、希望に全て応えるのは難しい、自宅で、家族でも叶えられないこともあるのだから、50%出来たら良いのでは。満足しているかは分からないが、フロアでは、自分で言わない人、待っている人が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞き取りシートやアセスメントシートを活用して、自発的に言えない人の本当の想いをくみ取る。 引き続き職員会議の冒頭で改善計画の振り返り、実現出来ているところや出来ていないところを確認し、どのようにしたら実現できるのか話し合う
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、各職員で気が付いた点の意見を出し合い、環境整備の委員を中心に意見をまとめて、改善方法を検討し整えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境整備委員を中心に動くのではなく、気づいた職員が個々で動いており、全体的に話し合うことはなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 以前、施設の前を通っても何をやっている所か分からなかった。今は分かっているから入れるが、まず知らないと入りにくい。 福祉施設と分かるように「ささえあいの会」ののぼりや「こどもSOS」の掲示もしてはどうか？ 利用者さんは落ち着いて過ごされていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 整理、整頓、清掃、設備の不備の改善などを計画的に行う。 物理的な環境だけでなく、私たち職員も環境の一部であることを意識した行動をする。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・名和公園の木曜日の体操、地域のゴミ拾い活動、防災訓練などに参加するなど、積極的に地域に向いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者と名和公園の体操に参加。地域ケア会議、ゴミ拾いの活動に参加できた。 ・地域の防災訓練には参加できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・以前と比べて地域で知っている方は増えていると感じる。 ・施設の前においてあるベンチにお年寄りが座っておられたら、お年寄りのいるところと知ってもらえるのでは。 ・聚楽全体としては参加しているが、地域密着型サービスの和泉の家としてはもう少し積極的にかかわりがあっても良いのではと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と関われる取り組みを職員も率先して取り組む ・雑巾の寄付や下校時間の声掛けを通じて地域や近隣の学校との交流を広げていく。
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問等でその方の地域との関わりを意識し、本人と一緒に出掛けの機会を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の催しの申し込みなどを代行したり、ご利用者が地域へ出て行けるように援助できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聚楽まつりやワークハウスさんのお祭りなど、ご利用者と一緒に参加等できたらよいのではと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き訪問等でその方の地域との関わりを意識する。 ・地域の催しを伝え、本人と地域が繋がり続けることのお手伝いをする。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者やご家族に参加して頂けるようにする ・他の職員も会議に参加できるようにする。報告書や議事録を全職員が確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者に参加して頂けているが、ご家族にお声掛けしたが都合が合わず参加いただけていない。 ・他の職員も参加できているが、報告書等が回覧できていない。 ・地域の方で心配な方などの事例検討は出来ていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者やご家族がどこまで参加できているのかわからないが、心がけは大切だと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きご利用者やご家族に参加していただけるようにお声掛けする。 ・和泉の家の取り組みを報告して、デイと小規模の違いを発信していく。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間想定避難時の課題を専門家（消防など）に相談する ・地域の防災訓練に参加する ・地域に事業所の防災対策を発信する 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災訓練などに参加出来ていない。 ・夜間想定避難訓練はまだ実施できていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・窓から道路に逃げられるような避難用シューターがあってもいいのではないかと ・地域の防災活動と共同、協力をしていくことが、大事だと思う。近隣の事業所も課題と感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の事業所と共同で地域の防災訓練に参加する。 ・具体的な避難設備などを専門家に相談する。 ・施設建物全体で防災備蓄を整え、地域へ発信していく